

令和3年度 東京都立三鷹中等教育学校 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 東京都立三鷹中等教育学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 教務部副主任 = 事務局長
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長（前期課程担当）、副校長（後期課程担当）経営企画課室長、主任教諭（教務担当）、主幹教諭（生活指導担当）、主任教諭（進路指導担当） 計7人
- (4) 協議委員の構成
三鷹市教育委員会事務局教育部長、近隣小学校長、近隣保育園長、元教育庁次長、元教育庁教育監、PTA会長、同窓会役員、近隣大学事務局長、近隣自治会役員 計9人

2 令和3年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
第1回 令和3年6月11日（金） 対面会議、内部委員7人、協議委員9人
委員・役員委嘱、年間計画、令和元年度学校経営報告・令和3年度学校経営計画、学校経営推進状況
第2回 令和3年10月7日（木） オンライン会議、内部委員7人、協議委員9人
学校評価実施方針・方法、学校経営計画に基づく教育活動報告、意見交換
第3回 令和4年2月10日（木） オンライン会議、内部委員7人、協議委員9人
学校評価アンケート結果報告、本校の教育活動への意見集約
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
第1回 令和3年6月11日（金） 対面会議、内部委員5人、評価委員3人
昨年度と本年度の学校評価について
第2回 令和3年10月7日（木） オンライン会議、内部委員5人、評価委員2人
学校評価実施方針・方法、意見交換
第3回 令和4年2月10日（木） オンライン会議、内部委員5人、評価委員3人
学校評価アンケート結果報告、本校の教育活動への提言集約

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 - ・ 11月 全校生徒 対象：944人 回収：887人 回収率：94.0%
 - ・ 11月 保護者全員 対象：944人 回収：723人 回収率：76.6%
 - ・ 12月 地域・住民 対象：80人 回収：70人 回収率：80.0%
 - ・ 11月 教職員 対象：70人 回収：70人 回収率：100.0%
- (3) 主な評価項目
 - ・ 本校は、「目指す学校像」の実現に向けた教育活動に取り組んでいる。
 - ・ 授業は、生徒の学力に合っていて、内容が分かりやすく、充実している。
 - ・ 本校は、体罰や暴言を許さない姿勢を示している。
 - ・ 本校は、進路・キャリアについての情報がよく提供され、指導が行われている。
 - ・ 本校の学校行事（合唱祭、文化祭、体育祭など）は充実している。
 - ・ 本校は、安全、衛生、学校事故に対する対応がよく行き届いている。
 - ・ 本校の職員は、業務の効率化や在校時間の縮減などにより、ライフ・ワーク・バランスの実現を図っている。
- (4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）
 - ・ 多くの生徒及び保護者は「教員は多様な指導を熱心に取り組んでおり、入学して良かった」と評価しており、学校の指導等に満足している結果を得た。
 - ・ 本校の補習や個熱指導及び生徒の学習意欲について、保護者と教員のポイントに開きがあることから、生徒の学習意欲の向上や個別指導の内容等に課題がある。
- (5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言内容）
 - ・ オンライン授業と登校しての授業の併用を想定し、今後もICT機器活用スキルの向上に向け、教員研修等の実施とともに、生徒へのオンライン授業の受け方等の指導の重要性が高まっている。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

地域住民を対象とした学校評価アンケートを導入して5年目となり、学校経営に対する地域の積極的な意見を得ることが定着化してきた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

年々改善されてきているが、ライフ・ワーク・バランスの実現について教員の評価が依然として低い状況にあり、業務の効率化や超過勤務時間の縮減などについて実効性ある業務改善策を構築する必要がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

I C T機器を活用し、企画調整会議や職員会議等の会議資料のペーパーレス化を更に推進するとともに、教員の超過勤務を軽減するため具体的な改善策を実行する。

(2) 学習指導

「三鷹スタンダード」委員会の活動を活発にし、本校生徒の進路目標を実現するための高い学力を定着できるように、全教職員の共通理解を図りながら一体感のある指導を行う。

(3) 特別活動

学校行事などの特別活動や部活動の更なる発展を図るため、集団の中で、自らが身に付けるべき資質・能力を明確にしなが、他者を理解し尊重する態度、思いやりの心と自主・自律の精神を養う。

(4) 生活指導

時を守る、場を清める、礼を尽くす、といった集団生活でのマナーを身に付けさせることに対して、温かく厳しい指導を行う。また、学校行事等の運営に生徒が主体的に関わるようなきめ細かい指導を行う。

(5) 進路指導

これまでの進路指導部としての取組を振り返りながら取捨選択を行い、高度な進路目標を実現するための高い学力を身につけられるよう、6年間を見通したキャリア教育計画の見直しを図る。

(6) 健康・安全

後期課程における自転車通学に対する校門指導や交通安全指導を通して、「交通事故ゼロ」を目指し交通ルールの順守を重点的に指導していく。

(7) その他

全ての職員が夏季休暇を完全取得するとともに、管理職は年15日以上、教員は年10日以上、年次有給休暇を取得することを積極的に働きかけライフ・ワーク・バランスの取組を推進する。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 9人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
8			1			

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 延0人 企画調整会議 0回 延0人（コロナ禍による自粛）

【成果】（次年度以降、協議委員が参加できる機会を検討していく）

8 その他

保護者のアンケート回収率を更に高めるため、教育用クラウドの操作について、丁寧に説明していく。